

長年培った経験と知恵を社会に活かしたい と考えるみなさん

●CNCP はそんなあなたが参加し楽しく活動する場です●

今月のひとこと

私の趣味の一つは能楽ですが、この世界も高齢化が進み、プロの後継者が少ないのが悩みです。先日、仲間のゆかた会で初めて会ったお医者さん、かなり若々しいけれど、既に 80 代とのものでびっくりでした。多くのお医者さんは生涯現役で、年をとっても開業医の手伝いや産業医などで元気に働いています。産科が専門で若いころは誕生で忙しかったけれど、最近は施設で看取る仕事ばかり・・・と言われたので二人で苦笑いしました。私たち土木・建設の世界でも、生涯現役を標榜する方が多いですが、まだ 60 代の方もあつという間に後期高齢者ですから油断できません。まわりを見ると自分の体力の衰えや病のことばかり気を回す方が多いのが気になります。社会で活動しているとボランティアとはいえ悩みも多く発生するので、自分のことを気にする暇が無くなります。「病は気から」というのは医学的にも立証されています。生涯現役を標榜するメリットは健康で長生きの秘訣かもしれません。



もう一つ、この年で活動する原則は“楽しむこと”です。さて、CNCP の活動が楽しいかどうか重要な課題ですが、シニアが楽しんで参加できる会を目指したいと思います。

(代表理事 山本卓朗)

Vol.40 コンテンツ

巻頭言	シビルNPO 連携プラットフォームの活動について	橋本 鋼太郎	2
コラム	NPO 法人建設技術監査センター創設 10 周年	五艘 章	3
トピックス	LIME Japan 第 13 回啓発セミナー報告	有岡 正樹	5
明治 150 年企画	明治 150 年企画” CNCP 通信特集 “に当たって	辻田 満	7
会員からの投稿	ひろげる・つなぐワーキングに参加して	小松崎 暁子	8
サポーターからの投稿	建設業における” 環境 “の役割	門倉 伸行	9
部門活動紹介	社会貢献市民交流ワーキング活動開始	地域活動推進部門	10
会員紹介	NPO 法人エコロジー夢企画	三井 元子	11
お知らせ	月間 CNCP 通信掲載記事アーカイブ化の運用について	有岡 正樹	12
事務局通信			14

シビルNPO 連携プラットフォームの活動について

(特非) シビルNPO 連携プラットフォーム 理事
橋本 鋼太郎



土木学会のシビルNPO 推進小委員会は平成28年3月活動報告書(平成26, 27年度)を発表した。当小委員会は学会内におけるNPOを含むサードセクターの活動等の社会活動の活発化に向けた推進を目指すものである。

新しい公共、共助社会の発展、官民連携・協力の観点からNPOの活用を推進すべきである。特に街づくり、地域創生、防災・減災、インフラ維持管理の分野で、また地域住民やNPOによる市町村行政の支援の強化において重要である。

そのためには。

1. 国、地方自治体が積極的にNPOを活用して地域に貢献する体制を確立すべきである。
2. 国、地方自治体から依頼される業務に従事するコンサルタント、施工業はNPOの一層の活用を図るべきである。
3. NPOは団体の概要(団体名、設立年、代表者、会員数、活動分野、地域、ミッション(理念や使命)、具体的な活動実績等)を公表し、活用される機会を得る努力をすべきである(報告書P31以下の別紙に紹介されているサードセクターは参考になる)。
一方、「CNCPサポーター」は、NPOに属する個人の経験、専門分野を登録するものである。また、「シビル・マッチ」は発注者(業務委託者)と受注者の間で契約をつなぐ業務をCNCPが行うものであるが、契約は発注者と受注者が直接行うことが一般的であると考えられる。
4. 国、地方自治体、学協会あるいはCNCPは活動を希望するNPOの登録制度の創設を検討すべきである。
5. 国、地方自治体、コンサルタント、施工業等の団体は従業員がNPO活動に参加しやすい環境を整えるべきである。また、各団体は経験ある円熟した技術者(OB等)のNP活動を支援すべきである。特にコンサルタント、施工業等の企業はCSR(企業の社会的責任)がますます強く求められているので、社会貢献となるNPOの支援、従業員等のNPO活動への参加の推進に本格的に取り組むべきである。
6. 例えば防災・減災については、災害が毎年多発して激甚な被害を生じている。経験したことのない豪雨等により地域住民が犠牲になっているが、市町村ではハザードマップをはじめ地域防災計画を策定しているものの避難が遅れている。災害時の具体的な危険性、避難の方法を地域住民に直接説明して納得して貰うことが必要である。また、ハザードマップ、地域防災計画が適切であるか、理解されているか、地区防災計画が必要か等も含めて、これらの活動は市町村だけでなく、NPOが最も適している。
7. CNCPの今後の活動の方向について、現在は地域活動推進部門、サービス提供部門、事業化推進部門(ソーシャルビジネス化)がCNCP会員の支援、あるいは会員と他のNPO等の連携が中心であるが、これらが一定の成果が得られた段階で、顧客はその他一般のシビルNPOであるとの観点からその支援になるように方向転換して普及していくことが適当であると思う。

以上の課題は土木学会のシビルNPO推進小委員会が中心になり推進策を検討すべきである。

NPO 法人建設技術監査センター創設10周年

(工事監査による若い土木技術者への技術の伝承)



NPO 法人建設技術監査センター 代表理事 **五艘 章**

バブル崩壊後、建設業界を目指す若者が減少し、世界一と評価されている我が国の土木技術の伝承が難しく成り、工事現場で事故が多発している。ここに教育的工事監査を行っている NPO 法人建設技術監査センターの「創設 10 周年感謝のタベ 記念講演会」の報告が全国の建設系 NPO 法人の運営に参考になれば幸いである。

当 NPO 法人は平成 17 年 4 月、日本技術士会、千葉県庁・日立・武蔵工大の技術士会の会員 15 名により創設したものである。現在は 30 名の会員(技術士：建設・機械・電気電子・環境等)、一級建築士、品確技術者等により工事監査、設計施工一括発注方式支援、竣工検査代行、土木技術者教育等を受諾して、技術者教育に役立つ活動を実施している。工事監査は対象工事に関する「市民との合意・企画・設計・施工・運営」の各段階の取り組み状況を書類と現場で確認し、問題点を指摘・指導する教育的監査を基本方針としてきた。そんな 10 年の区切りを経て去る 6 月 21 日、「NPO 創設 10 周年記念 感謝のタベ：記念講演会」を開催したので簡単に報告する。



H17.4.2 建設技術監査センター事務所開所式

講演会には創設時から御世話に成った千葉県庁、CNCP、東京都市大学、建設会社等の方々を招待し、45 名の方が参加され聴講された。冒頭、五艘の「皆様の御支援により倒産すること無く、創設 10 周年を迎える事ができた。心から御礼申し上げます」と心を込めた挨拶の後、分野の異なる以下の講師 3 名により行われた講演内容を簡単に紹介したい。

まず**山本卓朗氏**(CNCP 代表理事)が、「土木分野と社会の関わりを深めるには」と題して講演された。建設業者は社会から“公共事業で金儲けをしている企業”と認識されたまま、未だに曾野綾子の「無名碑」の世界にあるが、相次ぐ巨大自然災害に対し、ボランティア活動の台頭が著しく、市民と産・学・官の協働時代が変わって来ている。土木は工学の原点であり、土木学会は市民工学(Civil Engineering)への回帰が必要である。全国で数百といわれるシビル系 NPO 間に連携は少なく、CNCP へのシビル NPO 法人の加入は 30 に満たない。幅広い総合性を求めての再構築が必要である。

次は**中島善明氏**(日本建設新聞社副社長)が、「業界紙記者の取材ノート(我が国の建設産業界の現状と課題)」と題し業界記者の目から見た建設業界について、“請負による建設業は産業といえるか?”と。信長と蘭丸との関係等に例えて、楽しくも厳しい講演をされた。

最後は、映画監督である**本木克英氏**の建設とは離れた講演である。本木氏は 1987 年、親の反対を押し切り松竹に入社し、「超高速参勤交代」で日本アカデミー賞優秀監督賞を受賞する。監督した 3 本の「釣りバカ日誌」では、主役の三國連太郎、西田敏行は脚本、監督を無視してのアドリブの連続を見て見ぬふりをして撮影、山田洋二総監督は神楽坂で不貞寝の間に撮影は完了した、といった映画造りの裏話に聴衆は引き付けられて行った。監督は松竹からの請負業であり、赤字監督は 5 年間干される。全く売れなかった第一作は郷土の富山県人会が観客動員に努め、第 18 回藤本賞の新人賞を受賞し、認められる。売れない映画の苦しみに耐え、最後まで諦めない監督の生き方に、建設技術監査センターにおける我々の 10 年間に重なる。

懇親会では、関わりの深かった来賓者の挨拶や関係者への感謝状授与などをはさんで思い出話が弾んだ。懇親会で紹介された日本技術士会・西村常務理事による祝辞では、

“建設技術監査センターの様に技術士が様々な法人を構成し、日本技術士会とは異なる立場で積極的に活動を展開されたい。建設技術監査センターの之までの歴史ある運営の実績や成果は、多くの技術士に自信や誇りを与え、手本や目標になる。益々の発展を祈る。”

との言葉に、総会で誓ったこれから 10 年を引き締める次の「3つの NPO 運営の秘訣」を再認識した。

- ① 一人の優秀な技術者の活動に限界がある。会員の協働と誠心誠意の活動が NPO 活動の盛衰を決める。
- ② 正当な業務報酬を稼ぎ業務担当者に適正な報酬を支払う。報酬が無ければ NPO 会員は退会していく。
- ③ 工事監査に当たり NPO・発注者・設計者・施工業者は対等であり、決して上から目線で物を言わない。



山田 (1) 織田 (2) 柴田 (3) 坂田 (4) 江藤 (5) 松井 (6) 成岡 (7) 大槻 (8) 北原 (9) 高島 竹内 船越
 小林 (6) 佐藤 小野寺 (7) 細川 佐藤 有岡 片岡 小林 織村 佐分利 和田
 小林 (8) 若川 小森園 本木 中島 山本 〇〇 滝浪 (9) 二宮

(H29.06.21)

NPO 法人建設技術監査センター創立 10 周年感謝の夕べ (於) プラザ菜の花

欧米諸国では、土木技術者が憧れの職業として「大学の土木工学科受験倍率が最も高い」と報告されている。国の将来はインフラ整備により左右される。インフラに係る全ての組織が現実の問題点を調査・検証し、「誇りを失いつつある土木技術者の再生」に取り組んで貰いたい。CNCP 活動の究極の目標も、正に此処にあるものと理解している。

最後に NPO の運営に当り、座右の銘としている教訓 (私の技術者人生に大きな影響を与えた) を記載します。

(1) 武蔵高等工科学学校創設者・及川恒忠の教え

正しい事を正しく行えば、如何なる障害・困難に遭遇するとも勇ましく朗らかに進め得るものである。「志ある者は事ついに成る」は実に千古不滅の心理である。真に自由なる人は廉恥すなわち恥を知る事である。

(2) 五艘が奉職した前田建設工業の教え：創業者一族が今も社長として君臨している理由はここにある。

1) 第 2 代社長前田又兵衛 (前田一族が今も会社に君臨できる最大の功労者：国からの叙勲は一切無し)

- ① 誠実・意欲・技術の内、一つでも欠ければ会社は倒産する。
- ② 最新技術の開発者は名誉を手にするが失敗し赤字に成る。2 番手は新技術の問題を解決するが赤字である。3 番手は新技術により利益を確保する。我が社は新技術が完成した事を確認して、4 番手で行け。
- ③ 不動産事業は儲かるが、安易に利益が出る工事を経験した技術者は、難しい工事は二度と出来なくなる。私は前田建設の社員の為に、不動産事業には決して進出しない。

※テレビのインタビューで「儲かる不動産事業に進出しない理由」を問われた時の回答。

2) 第 3 代社長：前田又兵衛 (工学博士：霸王とか魔王と呼ばれ、日科技連のデミング賞・N 賞を受賞)

会社が社運を賭した事業により倒産すれば社員と社員の家族だけでなく、協力会社の社員・家族も含めて、多くの人々を路頭に迷わす事に成る。私は社運を賭ける無謀な事業には絶対に挑戦しない。

※前田建設工業(株)技術士合格祝賀会で 3 代目社長がそっと私に囁いた言葉である。今も忘れられない。

トピックス

NPO 法人社会基盤の超長寿命化を考える日本会議(LIME Japan) 第13回啓発セミナー 「地方のインフラは大丈夫なのか?～地方からの報告～」

常務理事 有岡 正樹

本通信掲載記事のアーカイブ化については本月号の「お知らせ」で現況を報告しているが、インフラメンテに関する記事が、「インフラメンテナンス国民会議」が設立された平成28年11月を挟んでの約1年、ほぼ毎月のように取り上げられている。その国民会議を主催する国土交通省によると、中でも中小の地方自治体は専門の技術者不足や人口減少が続く中で財政的余裕がないといったこと等が複雑に絡み合っており、インフラメンテナンスが危機的状況に追い込まれているとされている。

そんな中、去る7月19日(水)午後市ヶ谷「アルカディア市ヶ谷(私学会館)」で、CNCPも共催者として開催された標記のセミナーに参加する機会を得たので、その概要について報告しておきたい。

1. プログラム

第一部：ミニ講演 13:05～14:25 (80分)

- ① 「インフラメンテナンスで地方自治体が直面する課題と取組み ～富山市スタイル～」
植野芳彦氏(富山市建設技術統括監)
- ② 「地方自治体のインフラメンテナンスを推進するために若手教員だから出来ること ～北陸での挑戦～」
宮里心一氏(金沢工業大学教授)
- ③ 「インフラメンテナンス分野の人材育成,産官学連携,新技術導入への取組み ～岐阜大学スタイル～」
六郷恵哲氏(岐阜大学名誉教授)
- ④ 「地方自治体の抱えるハードルは何か ～課題と処方箋を探る～」
西川和廣氏(国立研究開発法人土木研究所理事長)
- ⑤ 「インフラメンテナンス革命 ～インフラメンテナンス国民会議が目指すもの～」
鈴木学氏(国土交通省総合政策局事業総括調整官)

第二部：パネルディスカッション 14:35～16:25 (110分)

「市民の信頼を得ながらインフラの維持管理・更新をどう図るか」

○コーディネーター：本NPO 法人 齋藤宏保副理事長(元NHK 解説主幹)

○パネリスト：上記第一部講演者5名、および本NPO 法人大田孝二理事

2. セミナーの主旨とパネルディスカッションでの論点

NPO 法人LIME Japanでは、これまで13回にわたり災害時の対応を含めインフラのメンテナンスに関連して、100名前後の参加者を対象にセミナーを実施してきた。今回のセミナーでは、“本当に地方は困っているのだろうか? 対応が困難なのだろうか?”との視点で、地方の中でもインフラメンテナンスに積極的に取り組んでいると聞く富山市、金沢市、岐阜市の行政や学者などの専門家を招いて地方の実情を直に伺い、危機的状況と言われる地方の実情・課題を共有するとともに、国の政策担当者を交え、今後、インフラメンテナンスをどう進めたらよいか、解決への道筋を探ってみようとの主旨である。



第一部では上述の5名のパネリストによるミニ講演で、それぞれの立場における貴重な話を聞くことができた。紙面の関係でそれらの内容に触れることは出来ないが、前頁右の写真が示すようにそのHPやFacebookを通じてそれらの結果を逐次映像化してアーカイブ化されている。今回の講演内容についても、いずれ同様に公開されると考えられるので期待していただきたい。

さてこの啓発セミナーでは毎回、本NPO法人 齋藤宏保副理事長をコーディネーターとしてのパネルディスカッションで鋭い意見交換がされることが定番となってきた。技術者ではないが、33年前に話題を呼んだNHK特集「コンクリートクライシス」を担当され、その後もNHK解説主幹としての他、常に建設産業界に物申すジャーナリストとして関わってこられた経緯がある。今回も標記の課題に対し、以下の視点での1時間半を超える意見交換がなされた。

- ① 地方で一番困っていることは何か？
- ② このままの状態が続くとどんな事態が懸念されるのか
- ③ どんな対策が必要なのか？

右表は、それらの意見交換に際してコーディネーターが提示した課題をキーワード的に整理したものである。それらに対する受け答えはパネリストにより様々で、参加してこその聴く価値だが、多くの論点が上がっている。地方自治体のインフラメンテは、それぞれが置かれた状況に応じ対応策も千差万別であるが、自治体毎にこれらの中から、課題解決検討事項の選択と集中を行い、その地域にあった対応策を絞り込んで行くヒントになると考えられる。

種別	項目	課題解決のキーワード
行政	政策	インフラは公共サービス提供の原点との認識不足(行政・住民・地方議員とも基本的に無関心)
		中央政府と地方自治体のインフラメンテ認識のギャップ、縦割り行政による連携の未達
	事業化	道路維持管理行政(国交省)と交通管理行政(警察)との利益相反
		地域の活性化とインフラの老朽化対応は自治体運営の二輪(防災・減災面と社会経済面)
情報公開	財源問題(補助金と自治体自己財源、点検強化後の対応が重要)→成果の評価と公表	
	予防保全(自治体財源)と事後処理(事故や災害)、施設の統廃合と利用制限	
市民	市民参加	自治体職員の認識(インフラは永久構造物の誤解、中堅職員の自覚と対応認識の限界)
		情報のデータベース化、公開および記録の保存
	国民理解	市民参画の初動段階とは(基本的な事項についての周知→国民会議フォーラムでの議論)
		市民のインフラ困った感(平時は薄く、災害時に致命的に増幅するインフラの存在感)
人材	住民の自らの資産認識高揚(見学会・見守り・手入れ)→地域愛	
	国民(一般地域市民)の理解→粘り強い広報活動	
人材・技術	子供(保護者:母親共々)および若者(次世代の事業従事者)の興味・関心・理解	
	広報手段(メディアツール)の変革(マスコミの無関心→書き物やTVからSNS等即時化)	
	過疎化・高齢化による人材不足→リタイアした専門家の参画(地の人・風の人:住民の流動化)	
		地域企業での(新)技術・人材・マネジメント力の限界、地域大学との協働、
		鉄道事業でかつて使われた「華の建設、涙の保線」の表現はまだまだ技術者に残る本音

最後に、各パネリストが色紙に今日の議論のキーワードを書き、それをもとに自らの提言を短くまとめてパネルディスカッションを終えるというのが本セミナーの定番である。ここで全員のコメントを記すことは出来ないが、それぞれ色紙に“変革・戦略・メンタ”、“新時代”、“大学の地域への貢献”、“5年目のレビュー”、“真の現状把握を”、“地方を元気に、観光業の開発”といった一言を書いて、有意な提言を述べられた。

3. まとめ

齋藤コーディネーターの取りまとめを受けて、Lime Japan 阪田憲次理事長より以下のようなコメントがあった。今この問題に心血を注いでいる我々にとって極めて重い言葉であったので、ここに付記しておきたい。

「地方のインフラメンテがうまくできないということは、地方が消滅することであり、それに支えられている日本そのものが衰退していくことに繋がるほどの危機的状況であるということを経験する必要はある。なぜそうした日本にとっての重要なことが一般の人に理解してもらえないのか？ それはいうほど容易ではないが、“技術者の努力が足りなかったのでは”との視点に立って、行政、住民、そして大学といった地域の組織が別々にやるのではなく、三者が協働して課題に当たるということに尽きると思う。」

もう50年近く前にならうか、大学を出て間もない同級生が、行政で、ゼネコンで、そして彼のように研究所でインフラを建設することに情熱を燃やしながらも、時折の勉強会で“いずれ何十年かのちにはこれらは劣化してくるはずである。そのことがどこまで考慮されて計画、設計、そして建設されているのだろう。”との疑問を抱いて議論し、コンクリートの超長期クリープ現象などを彼から教えてもらったの思い出す。その時以来の彼のこの課題に対するこだわりを知っているだけに、“日本そのものが衰退していくことに繋がる”とまで言い切った彼の一言が、決して想定外とは思えないのであった。

明治 150 年企画 “CNCP 通信特集” に当たって

CNCP シンクタンクチーム
明治 150 年企画ワーキング
常務理事 辻田 満

平成 30 年（2018 年）が明治改元の布告から満 150 年目に当たるので、政府では「明治 150 年関連施策の推進について」を取りまとめ活動を開始しました。 施策の方向性として

○明治以降の歩みを次世代に遺すこと

○明治の精神に学び、さらに飛躍する国を目指すこと

となっています。CNCP では、この活動と連動するものではありませんが、土木の歴史と文化を皆さんと一緒に議論する機会にしたいと考えました。

そこで、CNCP の定常的な事業に加え、新たに「CNCP 活動を面白くしていく取り組み」として、会員・関係者が身近な土木の歴史と文化に関心を持っていただき情報交流するという“お楽しみプロジェクト”を目指すべく、CNCP シンクタンクチームに 1 年間の期間限定で「明治 150 年企画ワーキング」を立ち上げました。

土木の世界では、土木という言葉の使用や学問としての土木工学がスタートしたのは、まさに明治期からであり、土木という言葉が案外知られていないのも歴史の浅さにあるのかもしれない。

そのことが社会資本整備の重要性や建設業の活動が、なかなか理解されない遠因になっているとも考えられます。そのため土木の歴史と文化を私たち自身が再認識するとともに、未だ地域に埋もれている多くの事蹟を発掘して整理していくことが出来れば、土木・どぼく・シビルエンジニアリングへの国民の理解促進にも役立っていくのではと大いに期待するものです。

とはいいつつ、このような活動はかなり広範で労力を要するので、長期的な課題としてとらえ、29 年度は、CNCP 通信への投稿記事の連載を中心に、出来る範囲での運動にしようと思います。このため、通常であればワーキングチームで企画の具体化に向けた作業を進めた上での絞った活動をして行くのが常道ですが、今回はそのような進め方ではなく、ワーキングチームは、“フリーディスカッションの場”として活用し、参加者の負担にならないようにしたうえで、広くメンバーを募っていこうと思います。そしてこれが CNCP 自体の活性化の起爆剤となり、ひいては CNCP サポーターの拡大につながることを期待しています。

当面は CNCP 通信に「明治 150 年企画特集」を設けて関連記事を掲載して参ります。しばらくはワーキングメンバーが記事を投稿しますが、その記事をお読みいただいた読者からの自由投稿を歓迎します。さらにワーキングはメンバーを固定せずに公開しますので、自由に参加されることを期待しています。CNCP 通信「明治 150 年企画特集」にご投稿いただける方は CNCP 事業化推進部門担当理事（辻田）までご連絡ください。問い合わせも全て下記のメールとさせていただきます。

*メールアドレス： tsujita@alpha.ocn.ne.jp

ひろげる・つなぐワーキングに参加して

個人正会員 小松崎 暁子

こんにちは。私は CNCPC のホームページを制作させていただいたことがご縁で個人会員となり、昨年
から「CNCPC アワード」事業に携わっております。

先日、このアワードの選定委員長をお引受けいただいた、メディア社会学がご専門の粉川一郎教授のお
話を伺った折りに、アワードの応募を増やすには、まず CNCPC の活動を知ってもらうことが必要とのお
話があり、その後立ち上がった CNCPC 広報グループ「ひろげる・つなぐワーキング」にも私は参加する
ことになりました。

「ひろげる・つなぐワーキング」の活動は、リーフレットやホームページを使って CNCPC をもっと広
く認知してもらうため、まずは CNCPC の活動内容を表す端的な説明文を作ることから始まりました。

そもそも「土木」という言葉は正しく理解されているのか、「シビル・エンジニア」はどうか。また「建
設」はどうか。「どぼく」「ドボク」「DOBOKU」という表記の仕方。「インフラ?」「社会基盤?」
中学生にも分かるような文章で説明したい、などの意見が出されました。

CNCPC が掲げる「中間支援組織」という使命も一言で表現するのは難しく、これまで産学官が社会基盤
整備を担ってきたが、これからは「市民」という立場で関わりを持ち、共にまちづくりをする時代を推し
進めるのも CNCPC の役目、などとなると、盛り込みたい内容が膨らみ過ぎて、簡潔にまとめるのは益々
難しく、様々な意見で白熱していた時に一人のメンバーが口にした言葉がありました。

「道路や橋に花を植えることも産学官+民ですよ?」

すっっと肩の力が抜けた思いがしました。

粉川一郎教授もおっしゃっていました。「インターネットの時代とは言え、大切なのは人と人のつなが
りなんですよ。」と。

人はみんな違う経験を重ね、違う専門知識や技術を積み、それぞれの人生を歩んで今に至る。花を育て
るのが得意な人がいて、ある日、道路整備や河川工事が専門の人たちと出会い、土手や川岸に花壇を作っ
て憩いの場となり、川と共に暮らすことを考え始める。

自分が社会の一員としてできる役割は何か、を常に頭の隅においておくと、必ずや出番がやって来て、
それまで接点のなかった人々に出会い、つながって、まちが住みよくなり、さらに満たされた人生になっ
ていくのです。それが産学官+民の神髄だと感じたわけです。

これからも、この必然の出会いをひろげる・つなぐために、CNCPC の活動に関わっていきたくて思っ
ています



建設業における“環境”の役割

株式会社 熊谷組
技術本部新技術創造センター技術部長 門倉 伸行



この5月にCNC Pのサポーターとして参加させていただきました、熊谷組の門倉と申します。CNC Pの中では、「うなぎ完全養殖インフラ整備事業研究会」に所属させていただいております。

サポーター登録をしてまだ2ヵ月ですが、これからいろいろ情報交換していくためにもこれまで主として関わってきた「ビオトープ」に関して事項紹介をさせていただきます。熊谷組では、入社から一貫して「環境」をテーマとして仕事してまいりました。実は、私の出身が当時の建設会社としては珍しく「化学」ということで、廃水処理や種々の材料分析等の業務から始まり、少しずつ環境の専門家になっていったという感じです。

一口に「環境」と申しまして、非常に間口が広い分野ですが、社内で担当してきた分野は、生物多様性等のビオトープ、豊洲で一躍有名になった地下水・土壌汚染問題の他、現在は筑波大学とともに微細藻類を用いたバイオマスプロジェクトにも参加しています。

このうち、とくにビオトープに関しては、他社との差別化を図るため、弊社の協力業者から「ホテル」の専門家をご紹介いただいたのがご縁で、それ以来ホテルの棲める環境づくり(われわれは「ホテルビオトープ」と称しています)に執着して進めてきました。これまでに、大小合わせて17件ほどの実施例がございます。その中でも、比較的大規模なビオトープの例を示します。これは、大分県日田市で施工した「大山ダム」での実施例です。

ビオトープに関しましては、弊社も含めどちらかというと作りっぱなしで、担当した各自の自己満足のことが多かったため、生物多様性の保全に対して定量的かつ公平に評価する制度を探した結果、「公益財団法人 日本生態系協会」という機関で生物多様性の保全や回復に資する取り組みを定量的に評価する手法「JHEP (ハビタット評価認証制度)」を運営していることを知りました。そこで、弊社のホテルビオトープに関して、JHEPの認証を取得すべく相談した結果、ホテルの生息に関するデータを協会として保有していないとのことで、ホテルの幼虫や幼虫が餌とする「カワニナ」という巻貝の生息空間の必要条件等を共同研究で調査・研究することから始めました。データ取得後に、前述の大分県日田市の大山ダムでのホテルビオトープに対し早速 JHEP の認証を申請して、湿地環境では日本で初めての認証を取得することができました。当初、この JHEP 認証は弊社単独で取得しましたが、取得後に発注者の独立行政法人水資源機構とも協議して、将来のビオトープの管理者は水資源機構であるので、共同認証者として支援をお願いすることにしました。ある意味、ダムは生態系を破壊する悪者のように扱われることが多いのですが、水資源機構として実際にはかなり生物多様性を意識した施工を実施してきていますので、その一環として生物多様性を前面に押し出す良い機会になったでしょうから、win-win の成果だと思っています。



大山ダムホテルビオトープ全景



ホテルビオトープでのホテルの飛翔

今回の「うなぎ研究会」では、前述の「藻類バイオマス」プロジェクトに関連して、魚類の飼料として最近「藻」が活用されている例を聞き及び、応用例として、うなぎの稚魚の「しらすうなぎ」の飼料として、「藻」が活用できないかなどと、勝手に想像しているところです。



社会貢献市民交流ワーキング活動開始！

常務理事 **皆川 勝**（東京都市大学）

本 CNCP 通信の Vol.36 で予告し、Vol.38 で事前インタビュー調査結果の概要の一端をご報告しました。また、Vol.39 では「賛助会員 CSR 紹介」として熊谷組の取り組みを紹介しました。それらで述べたような準備活動を経て、いよいよ、右図にあるような構想の下、社会貢献市民交流ワーキングの創設時メンバーが右下表のように決まりました。

第 1 回会合は、平成 29 年 7 月 20 日に土木学会会議室にて開催されました。準備活動としてのインタビューを実施した皆川・有岡・駒田から、準備活動の経過とインタビュー結果の概要を報告したのち、各委員から賛助会員各社における「社会貢献」に関する基本的考え方を中心にインタビュー結果を参照しつつ報告されました。それに対して、CSR や CSV などについて常に考え、それに関する実践活動をされている各委員からは積極的な発言が相次ぎました。ここでは議論の一端をご紹介します。

建設業はそもそも社会に貢献するために始まっており、本業を含めてすべての事業が社会に貢献する事業であるという考えは共通しています。真の顧客としての市民がいるとは言え、請負事業は発注者の社会貢献を手伝うという面があり社会貢献を打ち出しにくいという意識があるものの、請負であっても具体的に何をするのかを提案する立場になることも多く、請負であるから社会貢献ではないという考えは当てはまらないという自負もあるようです。一方、建設界の創造力・課題解決力が明瞭に伝わるのは PPP・PFI などの脱請負事業であるという意見や、建設業に関わらない社会的活動も社会的な企業としての役割の一つという意見もありました。

このように、すべての活動が何らかの意味では社会に貢献しているということは言えるようです。ただ、それを真正面から市民に主張して受け入れられるかどうかは別の問題というところが難しい点だと思いました。この会合を通じて、建設（シビル）系企業活動の社会的価値の再整理・共有・広報により国民の理解を高める、それによって次世代の建設界を担う若い人たちに土木の魅力が適切に伝わる、これらのことがこの WG 活動の使命ではないかと再認識しました。今後、多くの会員やサポーター諸氏に参加していただき、土木界の未来をより明るくしてゆく活動に繋がりたいと考えています。

土木学会 教育企画人材育成委員会 シビルNPO推進小委員会 社会貢献市民交流WG名簿			
役職	氏名	所属	所属・役職等
主査	皆川 勝	シビルNPO連携プラットフォーム (東京都市大学)	常務理事 (都市工学科教授, 工学研究科長)
委員	飯島 玲子	パシフィックコンサルタンツ	戦略企画統括部 D&I推進室長
委員	岩坂 照之	前田建設工業	CSR・環境部長
委員	金子 通	鹿島建設	広報室 担当部長
委員	東海林 直人	鉄建建設	土木本部 土木企画部長
委員	田淵 政一	エイト日本技術開発	総合企画本部 総合企画部 担当部長
委員	藤野 真	東亜建設工業	執行役員常務, CSR推進部長
委員	松尾 和昌	飛鳥建設	企画本部広報室・室長
委員	松田 和繁	熊谷組	コーポレートコミュニケーション室CSGグループ 部長
幹事	有岡 正樹	シビルNPO連携プラットフォーム (NPO法人社会基盤ライフサイクル マネジメント研究会)	常務理事 (理事長)
幹事	駒田 智久	土木学会シビルNPO推進小委員会 (オフィス パスタタイム)	委員 (代表)

～「花畑川を活かしたまちづくりの推進」事業～

花畑川は足立区内にあり、綾瀬川と中川をつなぐ 1.4 kmの運河である。荒川放水路開削の工事が行われていたころ、埼玉から東京へ野菜を運び、帰りの船で下肥を運ぶ舟運が盛んであったが、荒川で渋滞したことから、昭和 6 年に中川～花畑川～綾瀬川～墨田川への迂回ルートとして開削されたという。昭和 31 年ごろまでは使われていたが、今はほとんど船が通過することはない。近年、中川・綾瀬川の水質も良くなってきたことから、花畑川の崩れた護岸から川を注視すると、ボラやモツゴなどの魚影を観察することができる。流れもゆるやかなでボート練習でもしたくなるような穏やかな川である。綾瀬川と接する水門の際に第十三中学校がある。

NPO 法人エコロジー夢企画では、この第十三中学校の生徒とともに、「花畑川を活かしたまちづくり」を考えるワークショップをしたいと考え、中学校とともに「足立区まちづくりトラスト」に応募したところ、3 年間の補助が採択された。

事業の目的: 護岸の改修工事が計画されている花畑川において、地元住民及び中学校が連携し、川を使い、川を考え、より良い川づくりにつなげることを目指す。

まちづくりへの効果:

- ① 河川への理解と関心を高め、日常的に花畑川を活用するコミュニティを形成する。
- ② 次代を担う地域づくり、川づくりの人材の発掘、育成につなげていく。
- ③ 河川管理者と連携を図り、防災の視点も考慮した川づくりへとつなげていく。

ワークショップ: (中学 2 年生 200 名 x 3 年間)

- 第 1 回 花畑運河の歴史と水質調査、E ボート乗船体験(2 年生全員)
- 第 2 回 公開学習「花畑川と水害」(講師:土屋信行氏)と地域の方達の E ボート体験を補佐(中学生有志)
- 第 3 回 エコ夢探検隊に参加し、親子生物観察と E ボート体験を補佐(中学生有志)
- 第 4 回 公開学習「かわまちづくり・多自然川づくり」(講師:金尾健司氏)とワークショップ「ぼくたちの考えた花畑川の将来像」(2 年生全員と一般参加者)

その第 1 回目が 7 月 8 日(土)に行われたので、写真を紹介する。この一連の活動は早くも、今年 7 月 30 日に開催された「笑顔あふれる地域イベントアワード」において優秀賞を受賞した。実は、花畑川を管理する足立区は、29 年 3 月に経費削減を目的に水門機能をなくし、水深を浅くして親水護岸化する計画を発表した。29 年度調査、30 年度詳細設計、31 年度竣工の計画である。NPO 法人エコロジー夢企画は、地域の学びを助け、地域の方達が自分たちの川として花畑川を捉えた時、どんな花畑川であったら川も地域も笑顔になれるのかを考えるきっかけ作りをサポートしたいと考えている。



特定非営利活動法人 エコロジー夢企画

理事長 三井 元子

住所 〒120-0014 東京都足立区千住中居町 20-7 スズキビル 201

TEL 090-2905-6754 FAX 03-3886-6554

<http://www.ecoyume.net> info@ecoyume.net

月刊 CNCP 通信掲載記事アーカイブ化の運用について

CNCP 通信 Vol.39(2017.7)のP10 ~P11 に掲載している記載の標記について、いつ部これまでに整理、分析していた諸事項を、この機会に再編しましたのでお知らせします。会員を始め多くの方が時期に応じて執筆、掲載いただきました情報を有用下さい。

1. 月刊 CNCP 通信における公表事項

- ①毎月発行の CNCP 通信紙
- ②それらの既発刊紙のホルダー
- ③各月発刊紙の掲載内容分野別アーカイブ化一覧表
- ④分野別アーカイブ化記事の全 PDF 版
- ⑤掲載記事内訳数（10 回毎および累計）

2. CNCP 会員等立場による公表レベル

項目	一般	CNCP 会員／サポーター
①	CNCP ホームページに掲載	毎月の発行日にメール送信
②	CNCP ホームページの既発行全紙をホルダーにより参照	
③	CNCP ホームページに更新して掲載	毎月の発行日に更新版をメール送信
④	CNCP ホームページホルダーの関係 Vol.記事に必要なに応じてアプローチ	分野別アーカイブ化記事の PDF 版アプリから即検索可能
⑤	CNCP 通信サービス提供部門記事として動向記事として掲載	

3. 分野の仕訳（下記赤字分を追加、今後 g.を中心に必要に応じ細分化の可能性あり）

- a. インフラメンテ・更新
- b. 教育研修、セミナー・出版、意見交換等
- c. 災害、防災・減災、危機管理
- d. NPOファイナンス、PFI/PPP、リスクマネジメント
- e. 地域社会（まちづくり、協働・連携、地域組織等）
- f. 国際化(国内外)、海外情報
- g. シビル NPO の現況と課題(技術・人材・制度等)
- h. その他（シビル NPO にとくに関わらない随筆的な投稿）

以下の表は、a. インフラメンテ・更新分野での「CNCP 通信掲載内容分野別アーカイブ化一覧表」の一部です。

なお、上述の分野のうち g.および h.は個々の記事が直接関連するものではありませんので、分野別アーカイブ化記事の PDF 版アプリ化をしていません。一般と同様 CNCP ホームページホルダーの関係 Vol.記事に必要なに応じてアプローチ下さい。

CNCP通信掲載内容分野別アーカイブ化一覧表

a. インフラメンテ・更新

年月	Vol.	記事NO	掲載項目	タイトル	掲載組織	執筆者
17.07	39	(2)	コラム	そこにリアリティはあるのか？	個人会員	小林大
17.07	39	(3)	トピックス	インフラメンテナンス国民会議 自治体支援フォーラム ～インフラ老化時代におけるレジリエントな郡山を目指して～	サービス提供部門	有岡正樹
17.05	37	(3)	部門活動紹介	世界のインフラはこれからどうなるか	PO法人社会基盤 ライフサイクルマネジメント研究会	中村裕司
17.04	36	(1)	巻頭言	インフラと市民参画の活動	地域活動推進部門	皆川勝
17.02	34	(3)	トピックス	平成28年度NPO法人「SLIM Japan」講演会 「インフラ技術での海外展開と世界に通用する人材の育成」と今後の維持管理	NPO法人社会基盤 ライフサイクルマネジメント研究会	鈴木泉
17.02	34	(5)	部門活動紹介	いよいよ動き出した国民会議	地域活動推進部門	皆川勝
17.01	33	(4)	会員紹介	認定NPO法人 道普請人	認定NPO法人道普請人	木村亮
17.01	33	(5)	部門活動紹介	「インフラメンテナンス国民会議」近畿本部の発足	自治体インフラメンテ研究会西日本地区	小谷義博
16.12	32	(3)	トピックス	「インフラメンテナンス国民会議」発足	サービス提供部門	有岡正樹
16.11	31	(5)	トピックス	インフラメンテナンス国民会議設置に向けた活動(その2)	サービス提供部門	有岡正樹

4. 再整理結果による分野ごとの掲載記事内訳数（10回毎および累計）

CNCP 通信 Vol.39 に記載の一覧表が一部変更になりました。

No.	Vol.	期間	発行回数	投稿文の主たる内容分野								計 (比率%)
				a	b	c	d	e	f	g	h	
				インフラメンテ更新	教育研修セミナー 出版・表彰 意見交換等	災害 防災・減災 危機管理	NPO ファイナンス PFI/PPP リスクMG	地域社会 (まちづくり、 協働・連携、 地域組織等)	国際化 (国内外) 海外情報	シビルNPOの 現況と課題 (技術・人材・ 制度等)	その他 (随筆的な 投稿)	
1	1～10	2014.05～2015.02	10	5 (8)	3 (5)	4 (7)	1 (2)	13 (21)	2 (3)	30 (48)	4 (6)	62 (100)
2	11～20	2015.03～2015.12	10	7 (9)	11 (15)	4 (5)	6 (8)	15 (20)	4 (5)	24 (32)	4 (5)	75 (100)
3	21～30	2016.01～2016.10	10	8 (11)	14 (19)	9 (12)	2 (3)	14 (19)	4 (5)	20 (27)	3 (4)	74 (100)
4	31～38	2016.11～2017.06	9	11 (13)	11 (13)	2 (2)	5 (6)	19 (22)	4 (5)	21 (24)	13 (15)	86 (100)
計			39	31 (10)	39 (13)	19 (6)	14 (5)	61 (21)	14 (5)	95 (32)	24 (8)	297 (100)

上記の月刊 CNCP 通信掲載記事アーカイブ化の運用以外に、NPO 法人会員等開催のセミナーや各種研究会・勉強会、さらには事業化検討会など、個人会員やサポーターにとって情報交換の機会が増えてきています。

中でも添付のチラシに示すように、何の義務・責任のないサポーター登録制度については次世代を担うとくに若手・中堅の建設関係者にとって、近い未来のネットワーク化の一助となると信じます。

CNCP も設立 3 年を経ました。土木学会とも連携して、
市民社会との連携をキーワードに意を尽くしていきます。

是非 CNCP サポーターとして、よろしく応援してください !!

お願いとお知らせ

CNCP の会計年度は 8 月 1 日から翌年の 7 月 31 日です。

平成 29 年 7 月 31 日で平成 28 年度が終了します。

8 月になりますと平成 29 年度の年会費の請求書を送らせて頂きますので年会費の振り込みをよろしくお願い致します。

平成 28 年度の事業報告、決算報告、平成 29 年度の事業計画及び予算案は総会で行います。

今年の総会は平成 29 年 10 月 3 日（火）13：00 からを予定しています。

併せて CNCP アワード 2017 の表彰式、北河大次郎講師による講演会を予定していますので、参加いただきます様お願い致します。詳しいお知らせは、後日メールでお送りします。

事務局通信

1. 8月の会議予定

- (1) 8月4日(金) 15:00~17:30 : NPO ファイナンス研究会
- (2) 8月7日(月) 15:00~17:30 : 自治体インフラメンテ研究会
- (3) 8月8日(火) 13:00~15:00 : 見直しワーキング
- (4) 8月8日(火) 15:30~17:30 : 運営会議
- (5) 8月22日(火) 14:00~16:00 : 監事監査
- (6) 8月29日(火) 15:30~17:00 : 理事会

2. 8月1日現在の会員数

法人正会員 17、個人正会員 29、法人賛助会員 34 合計 80

事務局

お問い合わせは
こちらまで

特定非営利活動法人

シビルNPO連携プラットフォーム

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目 13 番地7
名古屋ビル本館2階 コム・ブレイン内

事務局長 内藤 堅一 : info@npo-cnep.org

ホームページ URL : <http://npo-cnep.org/>